

四月になり、花が咲き薫^{かお}る季節となりました。新たな気持ちで新年度を迎えている方も多いことでしょう。

四月八日は「花^{はなまつ}祭り」。仏教を説かれたお釈迦さまご誕生の日です。

この日は仏教にとって、とても大切なお祝いの日です。「降誕会^{ごうたんえ}」「灌仏会^{かんぶつえ}」と言いますが、一般的には「花祭り」と言い、お釈迦さまが花園^{はなぞの}で誕生された故事^{こじ}にならって多くのお寺では花御堂^{はなみどう}という小さなお堂を花で飾り、中央に右手は天を指さし左手は地を指さした、誕生されたばかりのお釈迦さまの像をおまつりし、甘茶をかけてお祝いをします。お釈迦さまに甘茶をそそぐのは、誕生された時に、天の竜王が香り高い甘露^{かんろ}の雨を降らせて産湯^{うぶゆ}にした、という故事によるものです。

今から約二千六百年前、お釈迦さまは世界の屋根といわれるヒマラヤ山脈^{ふもと}の麓から南に百キロ余り、現在のインドとネパールの国境付近のルンビニという場所の花園で誕生されました。

お釈迦さまはお生まれになるとすぐに立ち上がり、七歩歩いて、右手は天を指さし、左手は地を指さし「天^{てん} 上天下唯我独尊^{じょうてんげゆいがどくそん}」つまり「天にも、地上にもここにただ一つしかない、命が一番尊いのである」とおっしゃったとされています。

お釈迦さまは私たちに一人一人^{ひとりひとり}の命の尊さを教えて下さっているのです。

命が生まれるということは多くのつながり、つまり「縁^{えん}」によって始めて成り立つのです。仏教では「縁」をととても大切にします。

「縁」によっていただいた、ここにただ一つしかない命の尊さを有^{ありがた}難く感じると共に、四月八日は「花祭り」お釈迦さまのご誕生をお祝いしたいものです。

お釈迦さまの誕生は多くの故事、伝説で語られています。それだけ大切な日だということです。お釈迦さまが誕生されなければ「仏教」は生まれなかった訳ですから。